

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	都市整備課	主管課長名	仁平 昌則
5-2	施策名	景観の良い住環境の保全	関係課	ヤマザクラ課、地域開発課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民	①桜川市人口		人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値					41,278	40,483				
見込値										
実績値										
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。		①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合		%	目標値	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0
					実績値	45.8	44.8			
		②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)		件	目標値	20	50	70	90	110
					実績値	33	65			
		③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合		%	目標値	63.0	63.5	64.0	64.5	65.0
					実績値	48.2	43.8			
		④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)		件	目標値	30	40	50	60	70
	実績値				8	18				
				目標値						
				実績値						
成果指標設定の考え方	施策の対象である市民の対象指標は、「①桜川市人口」とする。施策の意図である「住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。」の成果指標は、「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」「②定住支援事業の支援件数」「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」とする。									
成果指標の把握方法と算定式等	対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合、③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、市民アンケートより求める。②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)は、事業実績数より求める。④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)は、実績件数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」は、前年度45.8%に対し、本年度44.8%で1ポイント低下した横ばいである。旧町村別割合を見ると、岩瀬地区48.1%、真壁地区39.4%、大和地区48.0%となっている。岩瀬・大和地区に比べ、真壁地区の値が低いのは、桜川市バス(ヤマザクラGO)が29年度中に運行が開始されたが、JR駅がないこと等、公共交通の脆弱性について今までのイメージに起因するものと考えられる。「②定住支援事業の支援件数」は、前年度33件に対し本年度32件と同等の数であり、予定目標をかなり上回った。H27より開始した定住促進助成金制度が、確実に浸透したものと考えられる。「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」は、前年度48.2%に対し、本年度は43.8%で4.4ポイント低下した。旧町村別割合を見ると、岩瀬地区36.7%、真壁地区53.9%、大和地区42.2%となっている。真壁地区の値が、他地区に比べ10ポイント以上高いのは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることや、真壁のひな祭りについて、マスメディアに多数取り上げられたためと考えられる。「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」は、前年度8件に対し、本年度10件と2件増加し向上の傾向である。空き家利活用のための空きバンクを昨年8月に立ち上げ、少しずつ浸透している傾向ではあるが低水準である。①と③については市民アンケートの結果によるため、少し低下しているが大幅な上昇は考えられないため、若干の低下であれば横ばいととれるのではないかと。また、②については1件低下しているが、予算が同額であったことから件数は同程度になることが予想されるため横ばいと考えられる。空き家については2件増加しているが、目標には届いていないためこちらも横ばいと考えるのが妥当である。以上のことから成果がほとんど変わらないと判断した。</p>		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	<p>「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」は、目標値62.0%に対し、実績値が44.8%で17.2ポイント下回った。「②定住支援事業の支援件数」は、目標値50件に対し、実績値が65件と15ポイント上回った。「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」は、目標値63.5%に対し、実績値が43.8%と19.7ポイント下回った。「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」は、目標値40件に対し、実績値が18件と22ポイント下回った。①③の成果については市民アンケートによるものであり、若干の低下はやむを得ないと判断する。②については大幅に目標を上回っており、また重要な指標のため、3つで目標を下回っているとは言っても一部の成果指標で目標を上回ったと評価した。</p>		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>家賃徴収事務については、滞納者に対する訴訟事務を行い、悪質な滞納者については保証人も含めて内容証明の送付を行った。これに応じなかったものに対して強制執行を行った。</p> <p>伝統的建造物群保存地区審議会運営事業については、修理修景の複数の重要物件に対しての審議を専門的知見と住民意見を反映させることができた。</p> <p>伝統的建造物群保存地区保存事業については、個人の財産に対する修理・修景工事に係る事業費に対し、間接補助事業を主として行っているため、行政の役割にはおのずから制限はあるが、その範囲内で適切に事業を進めることができた。</p> <p>歴史的風致形成建造物修理事業については、倒壊の危険性が高まっていた旧高久家住宅の納屋と門を修復することにより、安全性と歴史的風致を向上させることができた。</p> <p>地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、目標値を下回っているものの、真壁地区では目標値に近づいた値となっている。これは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることや、真壁のひな祭り等について、マスメディアに多数取り上げられているためと考えられる。</p>	<p>家賃徴収事務については、家賃納入の推進、収納向上を目指し、滞納者に対しては引き続き法的手段を視野に入れて指導を行っていく。</p> <p>伝統的建造物群保存地区審議会運営事業、伝統的建造物群保存地区保存事業、歴史的風致形成建造物修理事業については、審議会に諮りながら修理・修景工事を行い、景観の維持・向上を図っていくことが重要である。</p> <p>しかしながら、個人財産がほとんどであるため、個人の理解・協力が必要となる。</p>